

北海道の統一の方針



- 市、町、村、広域連合が道に納める納付金の算定方法
- 保険料が急激に上昇しないための激変緩和措置の方法
- 医療費適正化の取り組み
- 事務の広域的、効率的な運営の推進
- 社会情勢や取り組み状況を踏まえて3年ごとに見直し（必要があれば随時見直し）

お答えします

なぜ国保制度の見直しが必要なの？



- 国民健康保険制度は医療保険です。市、町、村が単独の小さい単位で運営するには限界があります。少子高齢化や人口減少によって今後新たな加入者が減り続け、制度を支える人口が減少する心配があります。
- 市、町、村ごとに保険料が大きく異なっており、北海道全体として公平な加入者負担になっていません。
- 運営の単位を全道に拡大し、国民皆保険の要である国保の基盤を固めて、安定した制度として次の世代に引き継げるように見直します。

国保は保険料だけで支えられているの？



- 基本的な仕組みは、皆さまが納める保険料と公費（税金）で半分ずつ医療費を負担することとなっています。国は公費負担を拡充することとしています。
- 実際には、65～74歳までの加入者にかかる医療費に対して、他の医療保険から受ける支援金など公費のほかにさまざまな費用でまかなわれており、実質的な保険料の負担は全体の約4分の1です。

北海道が運営に加わることで何がかわるの？



- 市、町、村、各地区広域連合が保険料を集めて医療機関に医療費を支払うという制度はそのままです。
- 保険料を医療費の割り勘と考え、各市町村の中で割り勘していたものを北海道全体で割り勘することになり、市、町、村ごとに異なっていた保険料が全道で同じ水準に近づいていきます（平準化）。
- それぞれの市、町、村で抱えていた問題は全道で解決し支え合うことになるので、国保制度は全体として安定していきます。

保険料は安くなるの？



- 道は標準的な保険料を市町村に示し、市、町、村が実際の保険料を決定します。
- これまでは医療費、所得の状況が異なる中で市、町、村、広域連合が独自に保険料を決めていたため、現在の保険料はそれぞれ大きく異なります。
- 市、町、村によっては保険料が上がったり下がったりします。
- 急激に保険料が上がる市、町、村がないように、全道で支え合いながら激変緩和措置を行います。

道内の保険料は統一されるの？



- 新制度の当初は、医療費、所得水準、解消すべき赤字額の違いなどによって市町村によってそれぞれ保険料が異なります。
- 保険料は全道で同じ水準に近づいていくので、将来的には保険料水準が統一されます。

お問い合わせ

大雪地区広域連合国民健康保険対策室 ☎（直通）82-3697 E-mail : kouiki.jimu2@town.higashikawa.lg.jp

厚生労働省ホームページ / <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000087166.html>
 北海道保健福祉部健康安全局国保医療課 / http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kki/kak/kouikika_junbi_index.htm

道民みんなで支えます
4月スタート 新たな国民健康保険

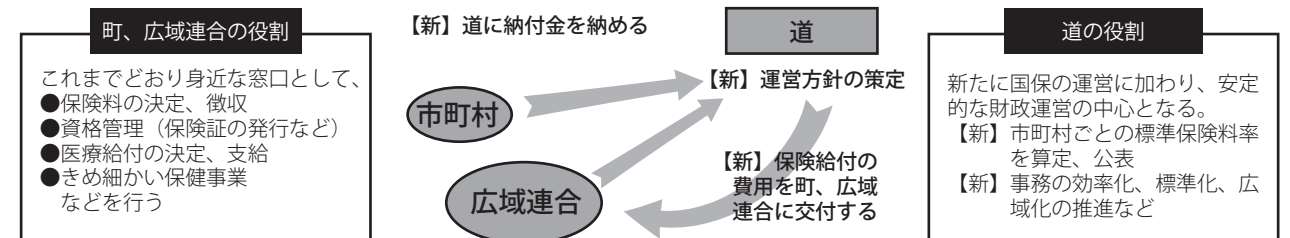
今年4月から国の公的健康保険制度である国民健康保険は、市、町、村と地域の広域連合に加え、北海道が保険運営に関わります。現在この保険には道民の4分の1が加入しており、道内全域で同じ水準の保険料を目指します（保険料の平準化）。国民皆保険を支えるため、道民みんなで健康保険制度を支え守っていきましょう。

1. 新たな国保制度の目的

市、町、村、各地区広域連合で大きな差がある保険料を平準化し、全道で公平な負担に近づける。市、町、村、各地区広域連合が抱える医療費増加リスクを全道で分散させる。

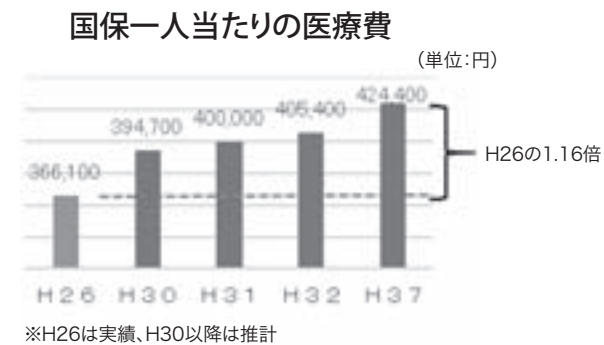


2. 市、町、村、各地区広域連合と道の新たな役割分担



3. 北海道の国民健康保険の課題

加入者に高齢者が多く、医療費水準が高い。一人当たりの医療費が年々増加し、7年後には現在の約1.16倍に。所得の低い加入者（非正規労働者、年金受給者）が多く、負担が重い。



国保加入者世帯の職業 (H27 北海道)

